

# DXが加速するGX

## —リサイクルビジネスの目線から—

DXを成功に導くには、企業を持つデータをビジネスで継続的に活用するための組織的な取り組みである「データマネジメント」が必須となる。

データマネジメントとは、単なるデータ活用ではなく、データを登録、更新、管理する仕組みを整備すること、つまりデータ構造を形式化する取り組みのことである。

データマネジメントを通じて目指すべき目的は、データに基づいた事業戦略決定ができる「体制整備」にある。新たな戦略を策定する上でデータは貴重な存在であり、企業として必要となる成長を目指すには、仮説検証を繰り返して、データに裏付けさ

れた信頼性の高い戦略を策定する必要があり、データマネジメントにより、あらゆるデータを整理さ

門が既存のシステム部門と協力して進められることが多い。しかし、「時間がかけても成果が見えない」と考えられる。

データマネジメントとデータ活用」の5つのステップを踏むことが求められる。データマネジメントという言葉からは、データ

第12回  
資源循環システムズ  
マネージャー  
**金田 栄**

## データマネジメントによるDXの実現

# データ活用を成功させる

## 5つのステップ

「完成したシステムが現場部門に利用されていらないのは、ソリユーションやツールの例も発生している。時間をかけても成果が見えないのは、データマネジメントの理解が社内全体に浸透していないことにより、ソリユーションの選

また、現場部門に利用されていないのは、ソリユーションやツールの導入そのものが目的となっていないことにある。データをどう活用し、どんな成果を挙げられるのか、というテーマが抜け落ち

収集、管理、活用といった運用フェーズを思い浮かべられるが、その前提として、データ取得先の把握、ビジネスに活用するデータの把握、事業領域を横断した分析を行うため、社内に点在するデータを予め1つのデータ構造に合わせて扱

内全体で部分的にでもデータマネジメントの成果を認めてもらうことで、DXの実現の前提条件となる。本場に役立つものは

当初の目的を単純なシステム連携に設定した場合も、実はビジネス目的の実現には異なる方法が適しているという結論が判明することも少なくない。どのような企業でも、何らかのデータ収集、管理は行われているが、その現状を把握すること、データをどのようにビジネスに活かすか、DXで何を成し遂げたいのかを明確にした上でデータマネジメントに取り組みが必要なのである。

データマネジメントシステムを導入する際には、「スモールスタート」が有効である。まずは、一部の業務システムからスモールスタートすることで、デジタル的に新たなアイデアなどの実現可能性や、それにより得られる効果の検証(Proof of Concept, PoC)を実施し、小さな成功体験を

とっては無用の長物に過ぎない。そこでデータマネジメントを成功させるため、「データ把握」「データ標準化」「データ収集」「データ管理」「データ活用」の5つのステップを踏むことが求められる。

### 「データマネジメント」のステップ



データマネジメントのステップ

(終わる)